

聖泉大学看護学部

看護キャリアアップセンター活動報告

平成 27 年度

Vol.4

聖泉大学看護学部附属看護キャリアアップセンター

## まえがき

聖泉大学看護学部  
学部長 流郷 千幸

関連施設の皆様におかれましては、日々、本学の教育およびキャリアアップセンターの活動にご支援、ご協力をいただきありがとうございます。

聖泉大学看護学部は開設 5 年目となり、今年度は学部教育に加え、大学院、別科助産課程での教育が始まりました。当センターにおける活動も 5 年が経過しました。当センターは、地域の医療、教育の発展と向上、保健・医療・福祉・教育現場の相互交流を目的とし、開設当初から看護研究講座、研究のサポート、共同研究を行なってきました。今年度は、開設当初からセンターの基盤を作って下さった上野範子センター長から、小山敦代センター長にバトンが渡され、当センターの新たな事業として卒業生のサポートが始まりました。卒業生には、学部を卒業した後も聖泉大学との繋がりをもちながら、それぞれの職場で活躍を続けていただきたいと思います。

看護研究講座においては、研究初心者を対象としたキャリアアップ講座と、2014 年からは研究の基礎を修得している方を対象としたキャリアジャンプ講座を企画・運営しています。キャリアアップ講座の修了者は 95 名、ジャンプ受講者は 23 名となりました。修了生の皆様には、本講座で培った研究能力を存分に発揮しておられることと存じますが、是非、研究を継続、発展させていただきたいと思います。次なる飛躍の場として、本学大学院でさらに能力を磨き、研究の楽しさや喜びを実感していただきたいと思います。また、これから看護研究に取り組む予定のある方、関心をおもちの方には、最初の一步として、本講座を活用していただきたいと思います。

修了時アンケートでは、講座の内容、教員のサポートなど好評価をいただいています。センター長、委員会メンバーをはじめとする多くの教員の協力の賜物だと自負しております。今後も看護職の方々にとって身近なキャリアアップセンターを目指して参りますので、おおいに活用いただければ幸いです。

# 目次

まえがき

聖泉大学看護学部長 流郷千幸

I. 看護キャリアアップセンターの概要	1
1 看護キャリアアップセンター設置の基本的な考え方	
2 センターの目的と機能	
3 設置・運営	
4 組織構成	
5 年間計画	
II. キャリアアップ講座	4
1 キャリアアップ講座	
1-1 キャリアアップ講座の概要	
1-2 講義内容（シラバス・講義資料）及び担当講師紹介	
1-3 キャリアアップ講座終了時の意見交換	
1-4 研究相談（概要）	
1-5 アンケートの結果	
2 キャリアジャンプ講座	
2-1 キャリアジャンプ講義内容（シラバス・講義資料）及び担当講師紹介	
2-2 キャリアジャンプ講座アンケート結果	
III. 卒業生研修会	31
1 卒業生研修会の講義内容 及び担当講師紹介	
IV. 聖泉大学ホームページへの掲載	32
1 キャリアアップ講座の掲載記事	
2 キャリアジャンプ講座の掲載記事	

資料

◆ 聖泉大学看護学部附属看護キャリアアップセンター規定	37
◆ キャリアアップ講座受講者の情報システム利用について	39
◆ 共同研究のお誘い	41

あとがき

聖泉大学看護学部附属看護キャリアアップセンター長 小山敦代

# I. 看護キャリアアップセンターの概要

## 1 看護キャリアアップセンター設置の基本的な考え方

看護キャリアアップセンター(以下センターとする)の設置主旨は、地域の医療、教育の発展と向上のための看護研究や講座の場、あるいは保健・医療・福祉・教育現場の相互交流の場となって、広く皆様の活動に役立てられることにある。

## 2 センターの目的と機能

センターは、地域の医療、教育の発展と向上のための看護研究や講座の場として、また保健・医療・福祉・教育現場の相互交流の場としての役割を担うことを目的とし、その目的を達成するために次の事業を行うことによりその機能を果たすものとする。

- (1)看護の質の向上を目指し、看護研究をテーマとした講座の開設
- (2)地域の医療関係者、看護教育関係者の研究のサポート
- (3)地域の医療関係者、看護教育関係者との共同研究
- (4)地域医療の向上のための研究・調査に関する事業
- (5)当大学卒業生の研究、講座のサポート
- (6)その他、センターの目的達成のために必要な事業

## 3 設置・運営

聖泉大学看護学部看護学科

〒521-1123 滋賀県彦根市肥田町 720 番地

ホームページ <http://www.seisen.ac.jp>

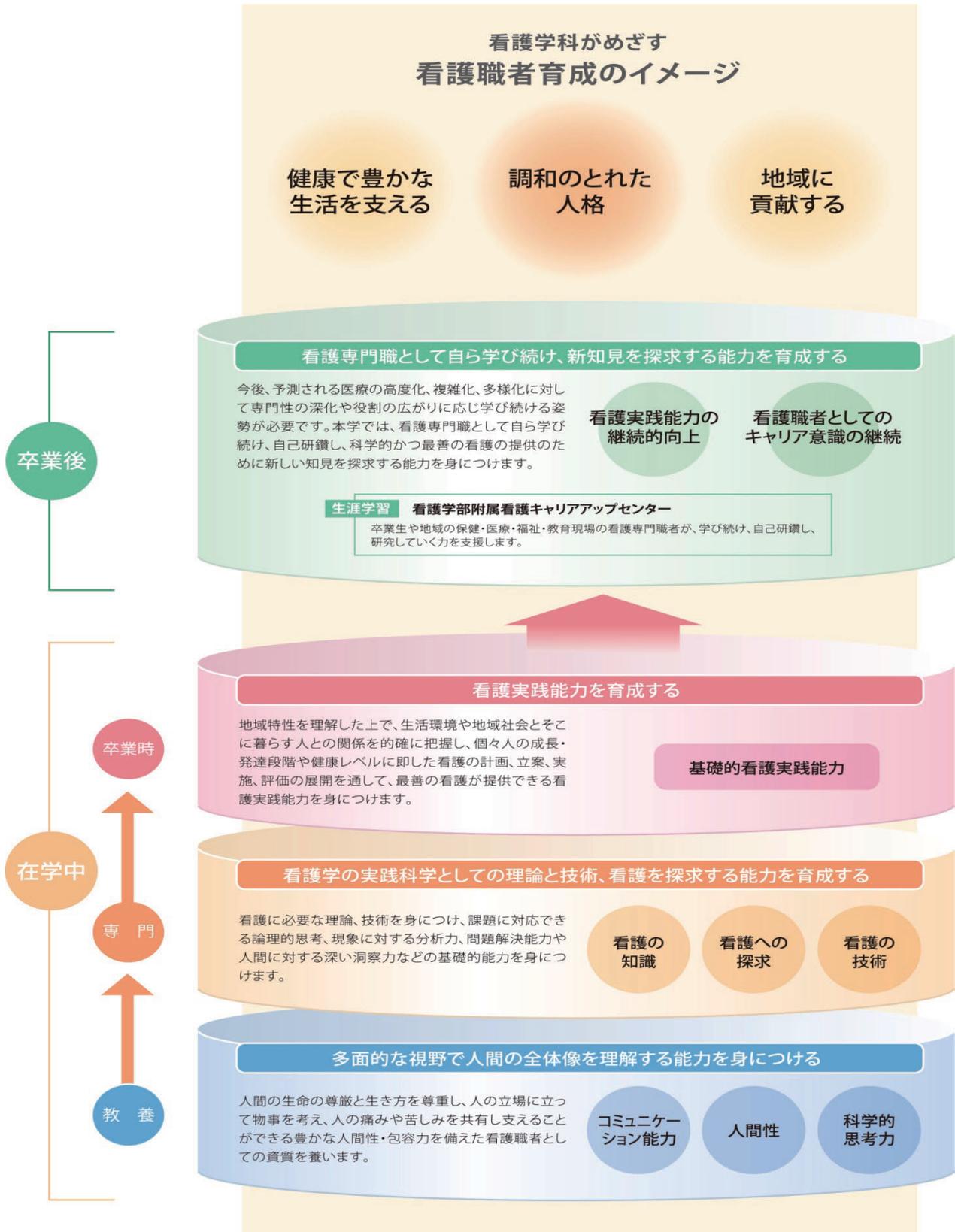


## 4 組織構成

平成 27 年度のセンターの組織構成は以下の表のとおりである。

	領 域	職 位	氏 名
センター長	基礎看護学	教 授	小 山 敦 代
委 員	養護	准教授	田 中 祐 子
委 員	小児看護学	講 師	平 田 美 紀
委 員	在宅看護学	助 教	川 嶋 元 子
委 員	成人看護学	助 教	國 松 秀 美
委 員	基礎看護学	助 教	千 田 美 紀 子
委 員	成人看護学	助 手	山 口 由 美 子

# ◆ 構成図



卒業時

在学中

専 門

教 養

**看護学の実践科学としての理論と技術、看護を探究する能力を育成する**

看護に必要な理論、技術を身につけ、課題に対応できる論理的思考、現象に対する分析力、問題解決能力や人間に対する深い洞察力などの基礎的能力を身につけます。

看護の  
知識

看護への  
探求

看護の  
技術

卒業時

在学中

専 門

教 養

**多面的な視野で人間の全体像を理解する能力を身につける**

人間の生命の尊厳と生き方を尊重し、人の立場に立って物事を考え、人の痛みや苦しみを共有し支えることができる豊かな人間性・包容力を備えた看護職者としての資質を養います。

コミュニケー  
ション能力

人間性

科学的  
思考力

聖泉大学ホームページより <http://www.seisen.ac.jp/>

## 5 年間計画・実施

	活動内容		
	キャリアアップ講座の開催 (規程第3条(1)に基づく)	キャリアアップセンターの運営 (規程第3条(6)に基づく)	研究相談活動 (規程第3条(2・3)に基づく)
2015 4月	ホームページ講座申し込みのアップ キャリアアップ講座・特別講座申込受付 講師依頼(文書発行) 施設設備の確保・調整・使用申し込み 必要物品など購入手配等、準備 受講申し込みの対応:受け取りの通知 4月30日申し込み締め切り 受講者確定,受講決定通知メールおよび郵送	臨時会議 新委員との顔合わせ, 定例会議日の決定, 活動計画について説明  定例会議(臨時会議も予定)  代表者メールの変更届け 共同研究の窓口, 問い合わせ窓口などの変更	研究相談の対応 専門教員への取次ぎ
5月	講座開催と支出に関する回議書申請	定例会議	研究相談の対応 専門教員への取次ぎ
6月	①キャリアホップ講座の開催:6月29日(月)	定例会議(前日準備) 必要物品など購入手配等,準備	研究相談の対応 専門教員への取次ぎ
7月	②キャリアステップ講座の開催:7月30日(木) 研究相談指導にかかるアンケート調査提出	定例会議(前日準備) 必要物品など購入手配等,準備	研究相談の対応 専門教員への取次ぎ
8月	③キャリアアップ講座の開催:8月21日(金) 研究相談指導にかかるアンケート調査提出	定例会議(前日準備) 必要物品など購入手配等,準備	研究相談の対応 専門教員への取次ぎ
9月	④キャリアサポートの開催:9月11日(金) ⑤キャリアジャンプ特別講座の開催:9月25日(金) 今年度開催講座の反省	定例会議(前日準備) 必要物品など購入手配等,準備	研究相談の対応 専門教員への取次ぎ
10月	講師謝金の支払い等予算執行に関する事後措置 キャリアアップ講座アンケートの集計とまとめ	定例会議 教授会, 学科会議での報告	研究相談の対応 専門教員への取次ぎ
11月	次年度実施計画の検討・予算案の作成 卒業生研修会・懇親会の検討・予算案の作成	定例会議 今年度決算及び来年度予算の概算 報告書の作成	研究相談の対応 専門教員への取次ぎ
12月	次年度開催日の検討 卒業生研修・懇親会のプログラムの確定	定例会議 報告書の作成  卒業生研修・懇親会について教授会で承認を得る	専門教員への取次ぎ
2016 1月	次年度実施計画の作成、講師の依頼調整 次回講座の案内文書の作成 卒業生研修会・懇親会の回議書決済 案内文書(卒業生・看護部長)の作成・発送	定例会議 次年度準備 報告書の推敲,印刷,発送準備	研究相談の対応 専門教員への取次ぎ
2月	キャリアアップ講座プログラムの確定 次回講座報告書・案内文の発送準備 卒業生研修会・懇親会への案内 出欠状況確認	定例会議 次年度の方針および活動計画の決定 次年度開催日, 講座内容, 講師, 会場について教授会で承認を得る 今年度予算の執行報告	研究相談の対応 専門教員への取次ぎ
3月	次回講座案内の発送 次年度ホームページの更新 講座会場等の使用申請 ⑥卒業生研修会・懇親会開催:3月24日(木) 卒業生研修会アンケートの集計とまとめ	定例会議 必要物品などの購入手配,準備  報告書の完成・発送 今年度総括と決算 新委員との顔合わせ	研究相談の対応 専門教員への取次ぎ

## II. キャリアアップ講座（看護研究）

### 1. キャリアアップ講座

#### 1-1 キャリアアップ講座の概要

##### ○キャリアアップ講座の目標

キャリアアップ講座が、地域の保健・医療・福祉・教育関係者の看護研究実践力の育成に寄与し、各々の相互交流の場となること。また、キャリアアップ講座をきっかけに、看護キャリアアップセンターの存在が地域に認知、定着され、さらなる地域連携や貢献へ展開できるようにしていくこと。

##### ○講座の到達目標

- ①看護研究を実践するための基礎的な知識や技術を身につけることができる。
- ②研究を進める上での疑問点を明確にし、それを解決するための方法がわかる。
- ③地域の保健・医療・福祉・教育関係者と相互交流することで、看護研究へのモチベーションを向上することができる。

##### ○開催日：キャリアアップ講座

平成 27（2015）年 6 月 29 日（月）  
 7 月 30 日（木）  
 8 月 21 日（金）  
 9 月 11 日（金）

##### キャリアジャンプ講座

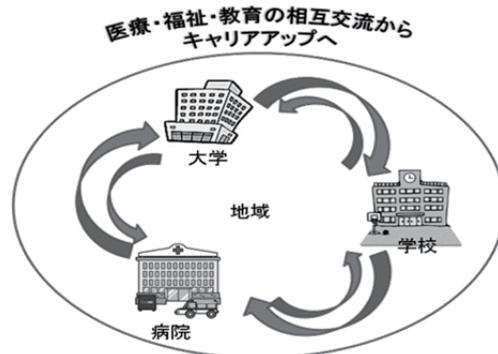
平成 27（2015）年 9 月 25 日（金）

##### ○場 所：聖泉大学学内

##### ○対 象：主に滋賀県下の保健・医療・福祉・教育機関に在職する者

##### ○プログラム：キャリアアップ講座（シラバス P.5-11 参照）

##### キャリアジャンプ講座（シラバス P.26 参照）



6月29日（月）	7月30日（木）	8月21日（金）	9月11日（金）	9月25日（金）
キャリアホップ （第1回）	キャリアステップ （第2回）	キャリアアップ （第3回）	個別研究サポート （第4回）	キャリアジャンプ （特別講座）
研究の方法と進め方について学ぼう 講師：流郷千幸	Excelを活用したデータ処理を学ぼう 講師：加納亜紀	研究成果のまとめ方と発表について学ぼう 講師：間文彦	個別研究相談 担当：看護学部教員	統計解析の基礎 講師：原田小夜
文献検索の方法を学ぼう 講師：平田美紀	アンケート調査の方法について学ぼう 講師：加納亜紀	学会発表の方法について学ぼう 講師：松永早苗		統計解析の演習 講師：種本香
看護研究文献をクリティックしてみよう 講師：田中祐子	基礎統計を学ぼう 講師：加納亜紀	口頭発表のスライドを作成してみよう 講師：松永早苗		SPSSを学ぼう 講師：種本香
参加者24名	参加者23名	参加者20名	参加者18名	参加者12名

## 1-2 講義内容（シラバス・講義資料）及び 担当講師紹介

講義テーマ	研究の方法と進め方について学ぼう	担当	流郷 千幸・平田 美紀
日時	平成 27 年 6 月 29 日（月） 10：00～11：30（研究方法） 12：30～13：40（文献検索）	場所	地域・在宅・精神看護学実習室 第 3 コンピュータ室

### 1) 講義の概要

研究方法論について学ぶ。研究デザイン、研究プロセス、データの収集方法等について、さらに、研究計画書の書き方、文献レビュー、論文クリティークの必要性と方法について学習する。

### 2) 講義の到達目標

- ①研究の問いによって手法が違うことを理解する
- ②研究のステップを理解する
- ③文献検索の方法を理解する

### 3) 講義内容

#### 1. 研究とは

- 1) 研究の問い
- 2) 量的研究と質的研究の概要
- 3) 研究の基礎的用語についての解説
- 4) 研究計画書の書き方
- 5) 倫理的配慮

#### 2. 文献検索について

- 1) 文献検索の目的
- 2) 文献の種類と看護研究のための文献
- 3) 文献検索の手順
- 4) 看護系文献を探す(医学中央雑誌・MEDLINE の検索の方法)
- 5) 文献の入手と整理の例
- 6) 文献検討の実際

### 引用文献

高木廣文，林邦彦：エビデンスのための看護研究の読み方・進め方，中山書店，2006.

黒田裕子：黒田裕子の看護研究 step by step，医学書院，2012.

川口孝泰：看護研究ガイドマップ，医学書院，2002.

#### 【講師】流郷 千幸（小児看護学）

専門は小児看護学で『医療処置を受ける子どもと親へのプレパレーション』に関する研究に取り組んでいる。

#### 【講師】平田 美紀（小児看護学）

専門は小児看護学で『検査・処置を受ける乳幼児に付き添う母親の心理』に関する研究に取り組んでいる。



講義テーマ	看護研究をクリティークしてみよう	担当	田中 祐子
日時	平成 27 年 6 月 29 日 (月) 13:50~15:10	場所	第3 コンピュータ室

### 1) 講義の概要

研究論文から研究方法の種類・手順・内容を確認後、クリティーク「評価、検討、判断」の手順を学び、先行研究レビューの目的（意義）と方法について学習する。

### 2) 講義の到達目標

- ①研究論文から研究の方法の種類・手順・内容について学ぶ
- ②クリティークの方法について学ぶ
- ③クリティークの実際

### 3) 講義内容

#### 1. 文献クリティークの手順

- 1) 研究論文の構成について
- 2) 当該研究の決定方法
- 3) 文献のクリティーク
  - ①何を明らかにしようとしたものか
  - ②研究対象とは
  - ③研究方法は
  - ④研究デザインについて
  - ⑤対象者の絞り込み
  - ⑥研究分析の方法につて
  - ⑦結果の読み方
  - ⑧考察の検討
  - ⑨結論の検討
  - ⑩まとめの検討

### 引用文献

- 数間恵子ほか：看護研究のすすめ方よみ方つかい方，日本看護協会出版，1997.  
石井秀宗：統計分析のここが知りたい，文光堂，2005.

### 【講師】田中 祐子（国際保健・学校保健）

専門は国際保健・健康教育で『エイズ・子宮頸がんを含む性感染症予防教育プログラムの開発』に関する研究に取り組んでいる。



講義テーマ	Excel を活用したデータ処理を学ぼう	担当	加納 亜紀
日時	平成 27 年 7 月 30 日 (木) 10:00~11:30	場所	第 4 コンピュータ室

### 1) 講義の概要

Excel の基本操作について確認し、研究を進める上で必要なデータ処理に関するスキルを身につけることを目的とした講義である。具体的には、演算式や関数を用いた表計算の方法やグラフ作成や編集の方法について、実際のデータを用いて演習を行うものとする。

### 2) 講義の到達目標

- ①Excel の画面構成とセルの編集方法について理解し、操作できる
- ②演算式や関数を用いて、データを処理できる
- ③目的に合わせたグラフを作成し、分かりやすく編集できる

### 3) 講義内容

#### 1. Excel の画面構成と基本操作

- 1) Excel の画面構成
- 2) セルへの入力
- 3) 計算式、関数の利用

#### 2. 実際に、データを処理してみよう

- 1) BMI を算出する
- 2) 肥満度を判定する「IF」
- 3) 平均値、標準偏差を算出する「AVERAGE」「STDEV」
- 4) 肥満度の判定『やせ』『標準』『肥満』の人数をカウントする「COUNTIF」
- 5) 性別に身長 の平均値、標準偏差を算出する「AVERAGEIF」「STDEV」
- 6) 書式を整える
- 7) グラフの作成

#### 【講師】加納 亜紀（養護教育）

専門は教育学（養護教育）で『養護教諭の保健指導に関する研究』に関する研究に取り組んでいる。



講義テーマ	アンケート調査の方法について学ぼう	担当	加納 亜紀
日時	平成 27 年 7 月 30 日 (木) 12 : 30 ~ 14 : 00	場所	第 4 コンピュータ室

### 1) 講義の概要

質問紙調査の利点と限界，並びに質問紙調査実施に必要な基礎的知識を身につけることを目的とした講義である．具体的には，質問紙作成の手順や質問紙の構成，質問項目の表現や言い回しに関する注意点，回答形式の種類とその特性について学ぶとともに，模擬質問紙を用いて，調査実施後の具体的な質問紙の処理の仕方や回答形式によるデータ入力方法の違いについて演習を行うものとする．

### 2) 講義の到達目標

- ① 質問紙調査の利点と限界について理解した上で，調査目的に応じた調査対象や内容を設定し，質問紙を作成する必要性があることを理解できる
- ② 質問紙の回答形式に沿ったデータ処理の手順を理解し，実施することができる

### 3) 講義内容

1. 質問紙調査の利点と問題点
2. 基礎資料の重要性
3. 調査対象の決定
4. 調査手段
5. 質問紙の作り方
  - 1) 質問紙の構成
  - 2) 質問項目のワーディング
  - 3) 回答形式の種類
  - 4) 事前テスト
6. ローデータの作成
  - 1) 質問紙の回答内容の検討とナンバリング
  - 2) 調査表の回答内容のコード化
  - 3) データの入力

講義テーマ	基礎統計を学ぼう	担当	加納 亜紀
日時	平成 27 年 7 月 30 日 (木) 14 : 10~15 : 40	場所	第 4 コンピュータ室

### 1) 講義の概要

調査研究を進めていく上で必要な実際にアンケート調査のデータを Excel に入力した後の基本統計の進め方とそれに必要な基礎知識について学ぶことを目的とした講義である。具体的には、模擬アンケート調査を用いて、データを実際に何件か入力し、単純集計の基本的な方法やグループ別に集計していく方法について演習を行うものとする。

### 2) 講義の到達目標

- ①データ処理の基本的な処理方法とその進め方について理解できる
- ②基本統計と推測統計の違いが理解できる
- ③実際にアンケートデータの基本的な処理ができる

### 3) 講義内容

- |   |
|---|
| <p><b>1. 記述統計と推測統計</b></p> <p><b>2. 記述統計について</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 質的データと量的データについて</li> <li>2) それぞれの処理方法について</li> </ol> <p><b>3. 基礎統計の方法</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 具体的手順</li> <li>2) 質的データの集計</li> <li>3) 量的データの算出</li> <li>4) 結果のまとめ方</li> </ol> |
|---|

講義テーマ	研究成果のまとめ方と発表について学ぼう	担当	間 文彦
日時	平成 27 年 8 月 21 日（金）10：00～11：30	場所	地域・在宅・精神看護学実習室

### 1) 講義の概要

研究成果のまとめ方と発表の方法についての概要を学ぶことを目的とした講義である。具体的には、プレゼンテーションの種類や方法について学ぶとともに、成果のまとめ方について基本的な事柄を理解するものとする。また、自分の研究テーマに沿った学会について知ることができる。

### 2) 講義の到達目標

- ①プレゼンテーションの種類と方法について理解できる
- ②研究成果のまとめ方について理解できる
- ③学会がどのようなものかを知り、自分の研究テーマに沿った学会を選択することができる

### 3) 講義内容

#### 1. プレゼンテーションについて

- 1) プレゼンテーションの目的
- 2) プレゼンテーションの要素
- 3) 研究成果の発表
- 4) 発表の種類
- 5) 口演発表，ポスター発表，事例発表，誌上発表の方法
- 6) 投稿種別
- 7) 論文の構成
- 8) 図表の効果的活用

#### 2. 研究倫理

- 1) 研究倫理のための規定
- 2) 倫理評価チェック項目
- 3) 倫理審査の必要書類
- 4) 研究者の倫理

### 引用文献

- 松木光子，小笠原知枝：これからの看護研究－基礎と応用－，廣川書店，東京，2001.
- 川口泰三：看護研究ガイドブック，医学書院，東京，2004.
- 黒田裕子：黒田裕子の看護研究 step by step，学研メディカル秀潤社，東京，2010.
- 南裕子：看護における研究，日本看護協会出版会，東京，2010.
- 及川慶浩：看護研究ポスターセッション，メディカ出版，大阪，2010.

### 【講師】間 文彦（精神看護学）

専門は精神看護学で『青少年の薬物乱用防止』に関する研究に取り組んでいる。



講義テーマ	学会発表の方法について学ぼう 口頭発表のスライドを作成してみよう	担当	松永 早苗
日時	平成 27 年 8 月 21 日 (金) 12:30~14:00 (学会発表) 14:10~15:10 (スライド作成)	場所	第 4 コンピュータ室

### 1) 講義の概要

学会発表の意義と方法について学ぶ。また、スライド・ポスターの作成、学会発表の方法や諸注意事項について学習する。

### 2) 講義の到達目標

- ①研究成果を発表する意義について学ぶ
- ②スライド・ポスターの作成方法と作成時の注意事項について学ぶ
- ③学会発表の方法について学ぶ
- ④学会発表の留意点・諸注意事項について学ぶ

### 3) 講義内容

#### 1. 学会発表の方法について

- 1) 研究成果を発表する意義
- 2) プレゼンテーションの目的・概念
- 3) 発表形式について (口演・ポスターセッション)
- 4) 発表時の様子, チェックポイント
- 5) 口演とポスターセッションの違い
- 6) スライド・ポスターの作成方法と作成時の注意事項
- 7) 発表原稿の作成, 学会発表の練習
- 8) 学会発表の留意点・諸注意事項

#### 2. パワーポイントを使って実際にスライドを作成してみよう

- 1) 効果的なスライドの作り方
- 2) 学会発表でのスライドの順番

研究テーマ・所属・発表者名, はじめに, 研究方法, 結果, 考察, 結論, 謝辞, 文献

### 引用文献

- 及川慶浩：看護研究ポスターセッション，メディカ出版，2010。  
 及川慶浩：ナースのための研究発表のツボ 208，メディカ出版，2007。  
 斎藤裕之，佐藤健一：伝わるプレゼンテーション，医学書院，2010。  
 早川和生：看護研究の進め方 論文の書き方 第2版，医学書院，2012。  
 足立はるゑ：看護研究サポートブック 改訂第3版，メディカ出版，2012。

### 【講師】松永 早苗 (基礎看護学)

専門は基礎看護学で『病院内や地域での感染対策』に関する研究に取り組んでいる。



### 1-3 キャリアアップ講座（キャリアアップ）終了時の意見交換

8月21日（金）に開催した第3回目の講座の最後に、小グループに分かれ、「施設内での看護研究の取り組みについて」というテーマにて意見交換を行った。

#### 【交流会での意見交換の内容】

##### 〈研究状況〉

- ・2～3年先に研究を始める予定のため参加した。研究の進め方、テーマの決め方などを学ぶことができた。
- ・研究の段取りや方法が分からないため、不安が大きい。
- ・テーマがなかなか決まらない現状がある。
- ・研究のメンバーが1年ごとに変わるため、新しい研究を文献検索から始めることがもったいないと感じている。研究テーマを継続できるといいと思う。
- ・3年目の看護師が中心に看護研究を進めている。
- ・各病棟で担当者を決めて、全病棟が取り組んで、研究発表会で発表している。
- ・院外から指導教員が来てくれている。
- ・一部の病棟が院内発表をしている。
- ・事例研究に取り組んでいる。

##### 〈研究について〉

- ・研究の指導体制や教育を受ける機会がないため、手探りで取り組んでいる。これでいいのかという疑問を解決することができない状態にある。

##### 〈環境について〉

- ・研究を担当してもスタッフから十分な協力が得られず負担が増えているため、研究担当者以外の意識を変えていくことも必要だと思った。
- ・取り組みたいテーマがあっても先行研究を調べる環境が整っていないため、院内の図書館や専門学校、大学を利用している。
- ・研究の時間は別に確保されていないので、休みの日や勤務の終わりに行っている。勤務体制にも配慮が必要だと思った。
- ・研究担当者は複数であるが、結局最後は1人で進めることになってしまう。
- ・共同研究者となかなか意見が合わない。

受講生からは、「日々の業務の中で研究をするのが苦痛であったが、3日間の講座を受け、頑張ろうという意欲が湧いてきた」といった声が聞かれ、他施設の受講生との意見交換の場がもてたことは、多くの受講生にとって有意義なものであった。

## 1-4 研究相談（概要）

9月11日（金）、個別研究サポート・個別研究指導を行った相談者数は12名、そのうち研究着手前に相談した人は8名、すでに研究に着手している人は4名であった。研究の発表予定については、施設内での発表10名、学会発表は1名、予定なしが1名であった。施設内発表のうち5名は今年度に発表予定であった。

指導教員は14名で、相談者の希望する領域や研究テーマに合わせて個別に対応した。

### 1. 研究相談内容

#### 1) 研究着手前

- ①研究疑問をどのように研究につなげればいいのか
- ②研究方法について（量的研究がいいのか、質的研究がいいのか）
- ③倫理的配慮について
- ④分析方法について
- ⑤研究計画書の書き方について
- ⑥研究メンバーと役割分担の方法

#### 2) 教員の指導内容

- ①研究疑問をどのように研究につなげればいいのか
  - ・同じような疑問を持って研究している人がどのくらい、どんな内容で研究をされているのかを文献検索を行い明らかにする。
  - ・疑問から研究対象をどのように絞り込んでいくか概念図を書きながら明らかにした。
  - ・文献検索時のキーワードの考え方。
  - ・お勧めの研究に関する本を提示した。
- ②研究方法について（量的研究がいいのか、質的研究がいいのか）
  - ・研究動機をはっきりさせる。
  - ・研究対象者数を明らかにする。
  - ・比較検討するのか、疑問を明らかにしたいだけなのか、研究対象者が協力できる時間がどれくらいかなどを考慮して、研究方法を選択する。
  - ・研究対象者を研究目的に合わせて、絞り込んでいくことが必要である。
- ③倫理的配慮について
  - ・研究対象者のみでよいのか、対象者を取り巻く家族も含めるのか、研究を行う場所や時間的配慮、対象の体調管理なども含め、丁寧に配慮することが必要である。
- ④分析方法について
  - ・2者を比較検討するのか、有意差を出すのかなど、研究動機、研究目的を常に頭において考える必要がある。

⑤研究計画書の書き方について

- ・背景，動機，目的をしっかりと書く．
- ・疑問に感じていることを概念図に書いておくと，目的が明らかになる．

⑥研究メンバーと役割分担の方法

- ・アンケートの作成，回収，集計，インタビュー後の逐語録などは分担できるが，文章を書くことは，リーダーなど限局された人になることは避けられない．

3) 研究着手後

- ①インタビュー対象者が5名もいない状態であるが，研究対象者として妥当であるか．
- ②逐語録を起こしてからどのように分析を進めればいいのか．
- ③仮説とは正反対の結果となった場合どうすればよいか．
- ④インタビューの内容やグループインタビューの方法について．
- ⑤アンケートを実施したが，研究で明らかにしたい内容は聞けていない，聞き取り調査時にこちらが聞きたい内容が導き出せていない，どうすればいいのか．

4) 教員の指導内容

- ①インタビュー対象者が5名もいない状態であるが，研究対象者として妥当であるか．
  - ・少ない人数でも丁寧に面接すればよい．
- ②逐語録を起こしてからどのように分析を進めればいいのか．
  - ・研究目的に沿った内容をコード化し，カテゴリーに分類する方法を指導した．  
逐語録毎にコード化してカテゴリーかするのか．
  - ・インタビュー者全員の逐語録を合わせてコード化する．
- ③仮説とは正反対の結果となった場合どうすればよいか．
  - ・仮説と違う結果に出た原因などを分析して，考察すれば問題ない．
- ④インタビューの内容やグループインタビューの方法について
  - ・研究目的に沿った内容をインタビューガイドにすることが重要である．
  - ・グループインタビューの方法について，説明した．
- ⑤アンケートを実施したが，研究で明らかにしたい内容は聞けていない，聞き取り調査時にこちらが聞きたい内容が導き出せていない，どうすればいいのか．
  - ・何が知りたいのかという目的を明らかにし，アンケートを作成する必要がある．
  - ・聞き取りを行う場所の設定や時間などを考慮して，研究に参加することが可能になる環境づくりを行うことが重要である．（倫理的配慮に関すること）
  - ・業務のなかで使用しているアンケートなどを研究につなげるのではなく，目的を明らかにした

うえで、アンケートの内容や聞き取りの内容をよく考えて実施する必要がある。

### 個別相談アンケート結果

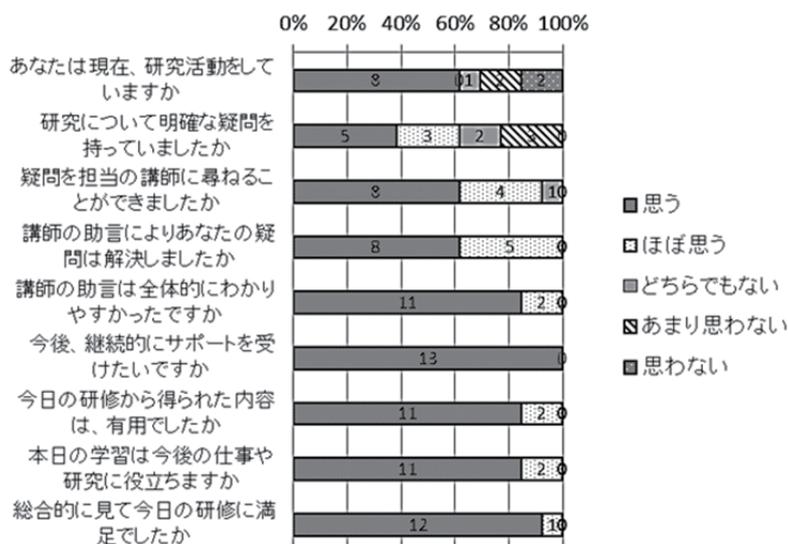


図 1 個別相談評価

今回の個別相談では、60%の人が研究に取り組んでおり、明確な疑問を持って相談に臨んでいた。また、90%以上が①疑問を講師に尋ねることができた、②講師の助言により疑問を解決できた、③講師の助言はわかりやすかったとの回答が得られた。さらに、相談を受けた全員が、継続的にサポートを受けたいと希望していた。

個別相談は、教員がテーマに応じて受講生の研究に対する疑問に対し、丁寧な指導をしていることが、結果より伺えた。

今後は、継続的なサポートができるような取り組みを考える必要がある。

## 1-5 アンケートの結果

受講者の自己評価アンケートは、第1回研修「キャリアホップ」、第2回研修「キャリアステップ」、第3回研修「キャリアアップ」ならびに、第4回の研究相談「キャリアサポート」、第5回研修「キャリアジャンプ」において実施した。受講者の受講動機や受講後の自己評価を振り返り、受講者にとってのキャリアアップ講座の有用性について評価するとともに、今後の課題を得ることを目的とした。

アンケートの回答は任意とし、倫理的配慮については、第1回研修時のオリエンテーションにおいて口頭で説明したうえで、研修終了後に回収した。

### 第1回～第3回の講座

ここでは、第1回研修「キャリアホップ」、第2回研修「キャリアステップ」、第3回研修「キャリアアップ」後のアンケート結果をまとめた。

今年度の受講登録者数は24人であった。アンケートの回収数は第1回24人（回収率100%、有効回答率88%）、第2回23人（回収率100%、有効回答率87%）、第3回20人（回収率100%、有効回答率90%）であった。

#### 1) 基本属性（表1）

年齢層は30～40歳代が約7割を占めており、看護の経験を積み重ねた熟練看護師がほとんどであり、臨床において研究を指導する人材育成につながると考える。また職種は、例年の看護師・保健師以外に介護職やケアマネジャーなどがあり、様々な施設へ本学のキャリアアップ講座が少しずつ広まってきたと考えられる。キャリアアップ講座が開設して5年目であり、引き続き臨床や福祉施設へ幅広く受講生を募っていきたい。

表1 キャリアアップ講座受講者の属性

個人の属性	n=24	
	人数	割合(%)
性別		
男性	1	4.2
女性	23	95.8
年齢		
20歳台	3	12.5
30歳台	5	20.8
40歳台	11	45.8
50歳台以上	5	20.8
職種		
看護師	19	79.1
保健師	1	4.2
介護職	1	4.2
その他	3	12.5
所属施設	人数	割合(%)
病院	19	79.1
介護老人保健施設	1	4.2
訪問看護ステーション	1	4.2
保健所、地域包括センター	1	4.2
その他	2	8.3

## 2) 第1回～第3回講座について

### 講義内容（図1, 図2）

各回の講義のテーマと内容の一致に関しては、大半が一致していたと感じていたが、第3回では一致していなかったと感じた受講生が約1割あった。また、講義内容の理解に関しては、大半が理解できたと回答していたが、第2, 3回では約1～2割があまり理解できなかつたと回答していた。各回の講座のテーマは例年通りであったが、担当講師の変更が一部あり、内容に統一性が持てなかつたことが要因と考えられる。講座のテーマと内容は、受講生のニーズに応じたものが望ましく、本学キャリアアップセンターの目的につながるよう講師との調整が必要である。

#### <共通項目>

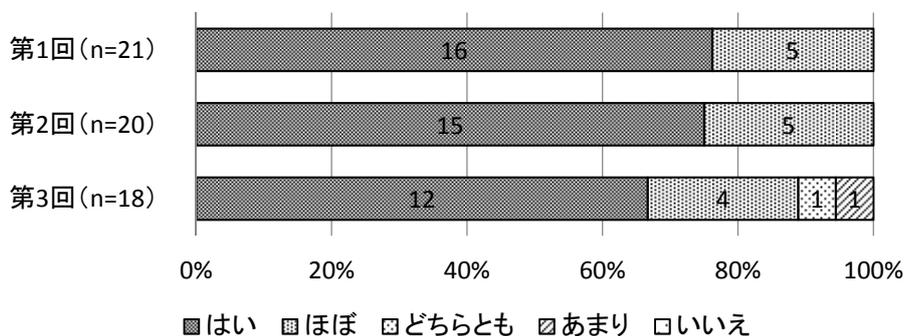


図1 講義のテーマと内容は一致していましたか

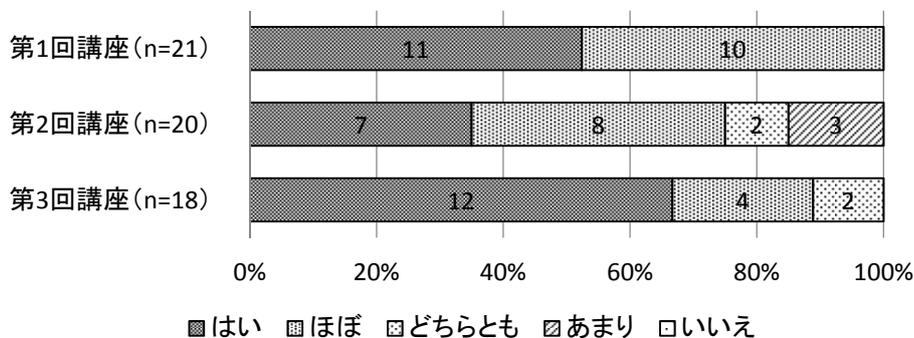


図2 講師の説明はわかりやすかったですか

#### <各講座の内容に関する項目>

第1回の講座は、研究の方法と進め方に関する内容であり、ほぼ全員が理解できたと回答していた（図3）。第1回の講座は、研究に対するモチベーションを向上させるための導入的な位置づけであり、受講生の意欲向上につながる内容であったと考える。臨床等実践の場において研究に取り組むためには、先行研究の文献クリティークが必要であるが、約3割が理解できなかつたと回答していた。クリティークの講座は、1論文を題材とし全体で論文を批判的に読む内容であったが、受講生は日頃から論文に触れる機会が少ない背景があると考えられる。しかし、本学キャリアアップ講座において演習を通してクリティークが体験できる機会であり、今後継続して論文に触れる動機づけになったと考える。

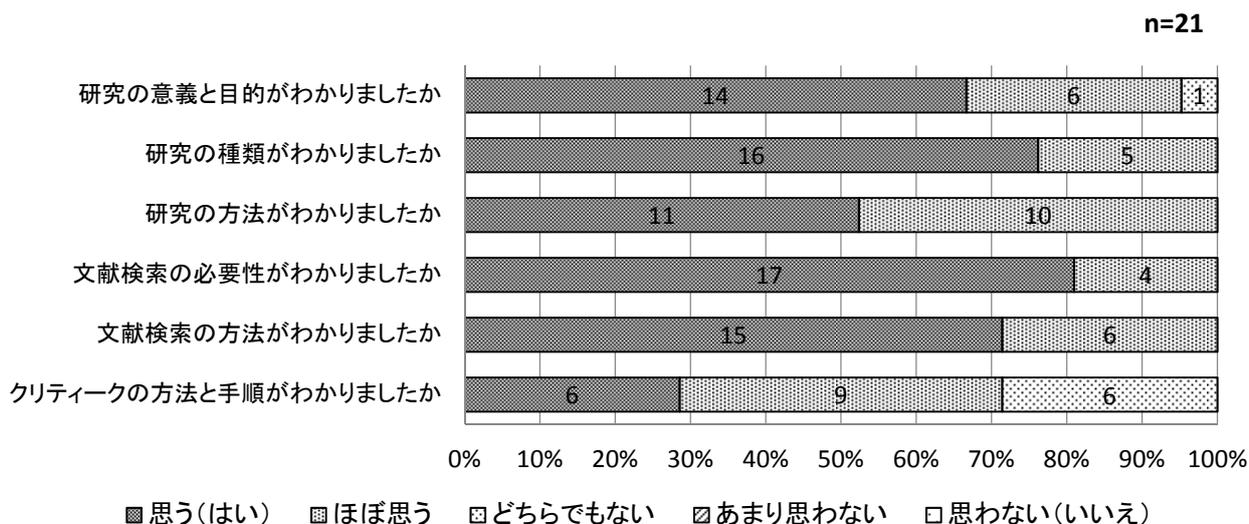


図3 第1回研修の受講者評価

第2回の講座は、量的調査における質問紙に関することと Excel を活用したデータ処理であった。しかし、受講生の Excel 習熟に差があり、量的研究における方法の理解は約8割以上が理解できたと回答していたが、Excel を活用したデータ処理に関しては約6割があまり理解できなかったと回答していた(図4)。本学キャリアアップ講座では、Excel の習熟度を事前に調査し、初心者を中心に学部教員がサポートを行っており、受講生からもサポートを受けてよかったという回答があった。しかし、Excel の基礎知識の内容は理解できるものの、実際のデータを用いたデータ処理は理解するレベルにまで到達するには時間不足であり、受講生が引き続きデータ処理を体験していくことがレベル向上につながると思われる。

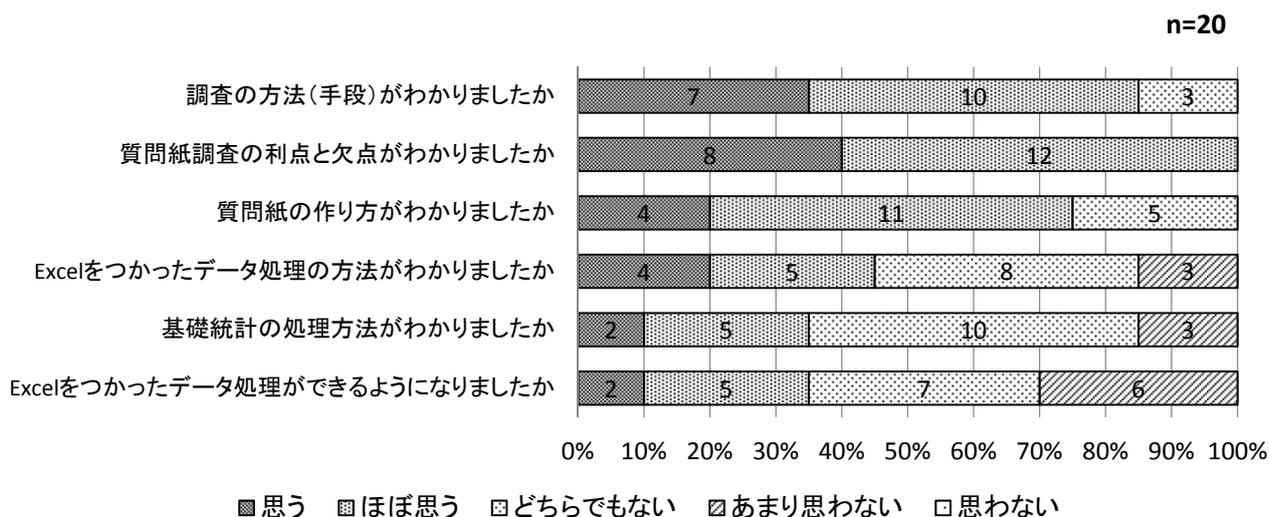


図4 第2回研修の受講者評価

第3回の講座は、研究成果のまとめ方と報告に関する内容であった。研究成果報告について、発表の種類や方法に関しては概ね理解できたとの回答が得られた(図5)。しかし、講座の内容は、Microsoft OfficeのPowerPointを用いてのプレゼンテーション法や作成方法としていたが、受講生の期待に応じていなかった部分があったと考える。所属施設での発表会などの機会もあり、PowerPointを活用したプレゼンテーション能力が求められてきている。受講生は、それぞれの立場で学びを得ており、演習内容を検討していく必要がある。また講座では、Excel同様にPowerPointの習熟度を事前に調査し、受講生に応じて学部教員のサポーターを配置して対応しており、今後も必要であると考え。

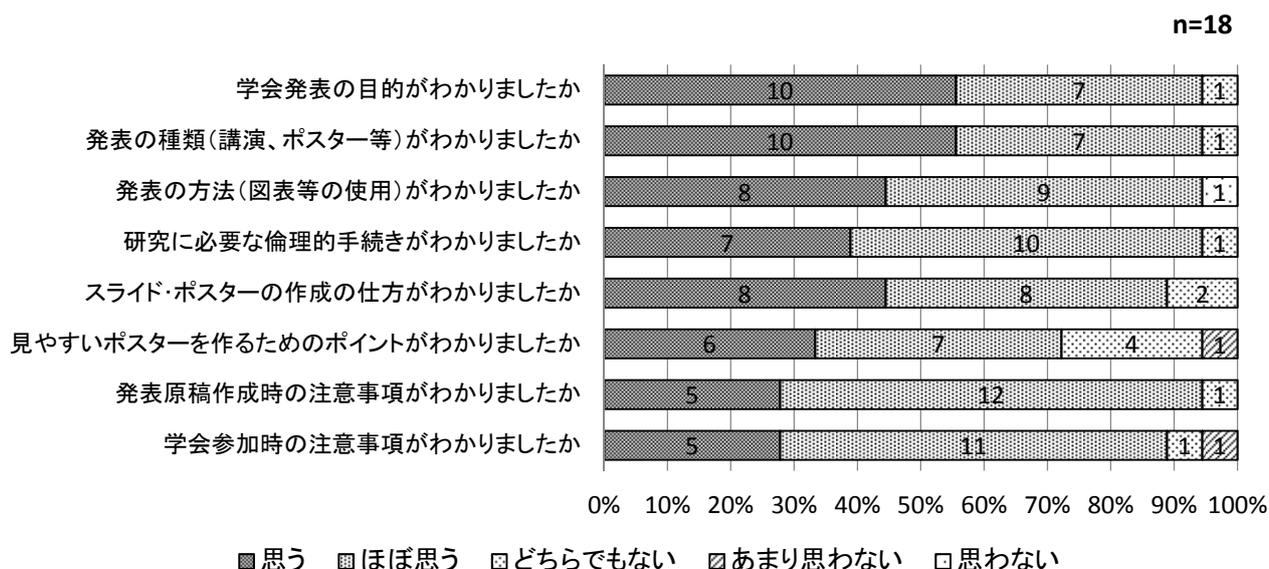


図5 第3回研修の受講者評価

3) 講義資料 (図6～9)

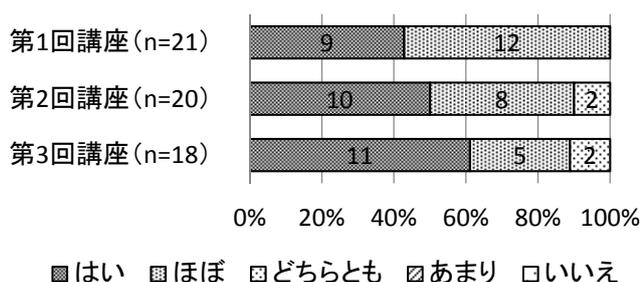


図6 講義内容に合った資料でしたか

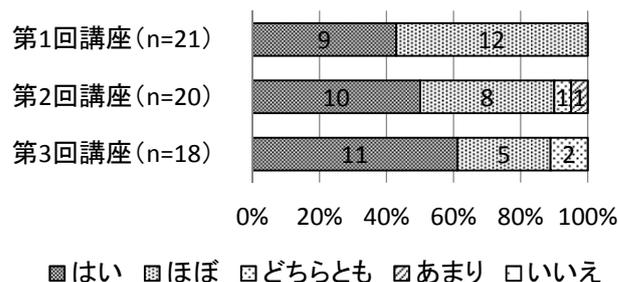


図7 資料は理解しやすい内容でしたか

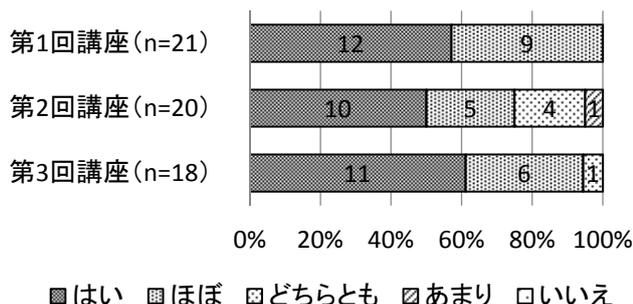


図8 資料の量は適切でしたか

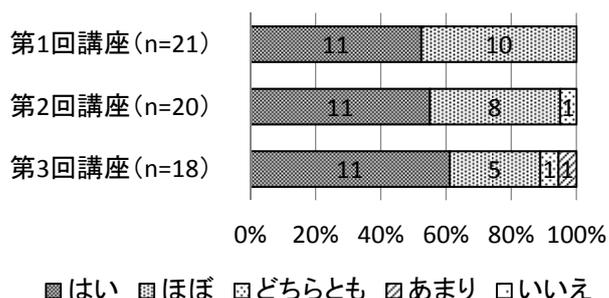


図9 今後に活用できる資料でしたか

4) 環境・整備 (図10~14)

教室の環境は、パソコンを使用する講座では本学の情報センターが会場であったが、空調調整が適切に対応できなかったことから、あまり整っていないという回答があった。受講生へは事前案内に、冷房への対応が必要であることの一文を添えているが、講座中にも確認をしていくことが必要である。

スタッフのサポートについては、ほぼ全員があつてよかったと回答しており、Excel や PowerPoint 習熟度に関係なく、その場での対応が効果的であったと考える。

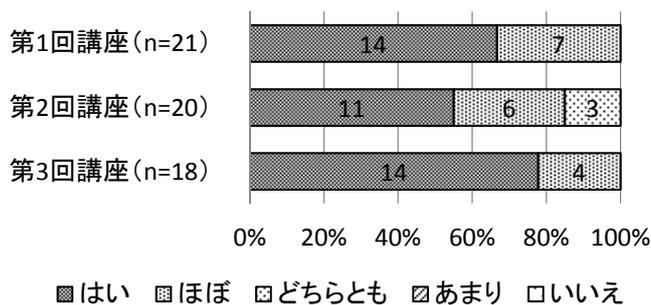


図10 教室環境は適切な学習環境でしたか

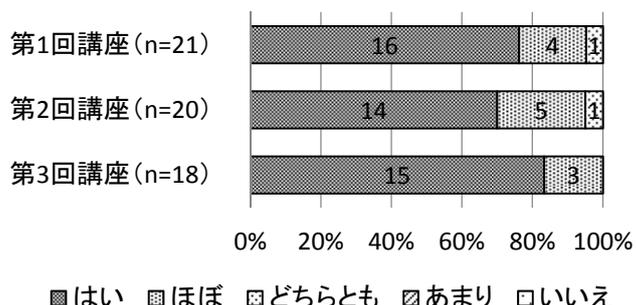


図11 パワーポイントは見やすかった

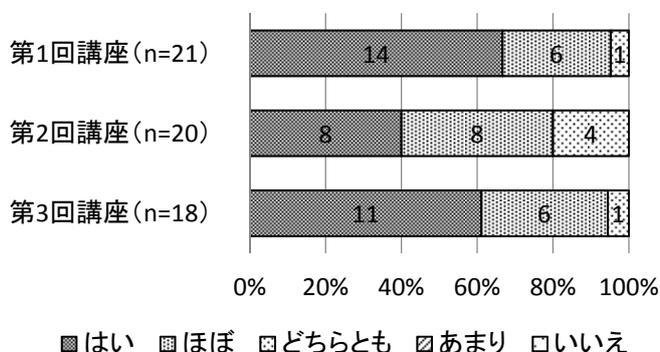


図12 パソコン利用の説明とパソコンの使い方がわかりましたか

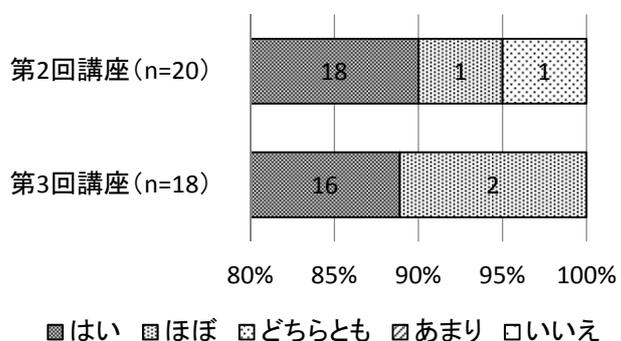


図13 スタッフの支援があつてよかったですか

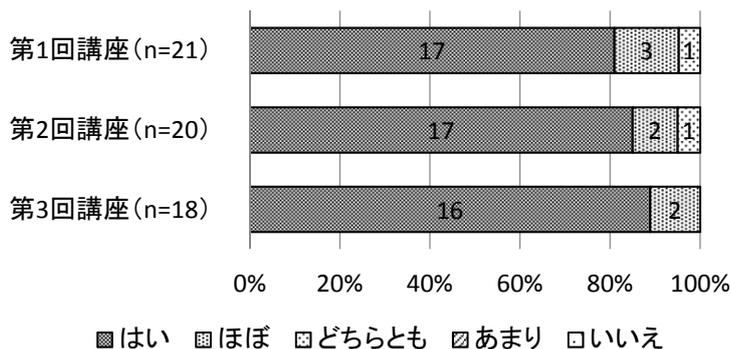


図 14 受講人数は適切でしたか

### 5) 総合

「本講座は学びたいと思っていた内容でしたか」の問いでは、各回全員がほぼ満足しており、受講生の年齢、職種、勤務先は様々であるが、本学キャリアアップセンターの機能である地域の医療関係者の研究をテーマとした講座および研究のサポートの役割と受講生の期待に応じた内容で構成されているといえる（図 15）。今後も引き続き地域医療関係者のニーズに合わせた支援ができる内容を継続していきたい。

「今日の研修から得られた内容は、有用でしたか」「今日の学習は、今後の仕事や研究に役立ちますか」の問いでは、約 8 割が今後に活かせると回答していた（図 16, 17）。

「総合的に見て、今日の研修に満足されましたか」の問いでは、第 1 回は全員が満足していたが、第 2～3 回は満足したと回答したのは約 8 割であった（図 18）。研究方法についての内容と、パソコンを使用する際の演習では、受講生のパソコン使用技量が影響するため満足度にも反映されたと考える。

本学キャリアアップ講座は全 4 回で構成されており、受講生のニーズを把握し内容を検討していく必要がある。また、講師やサポーターとの調整を行い、受講生に応じた支援ができるよう本講座を今後も発展させていきたい。

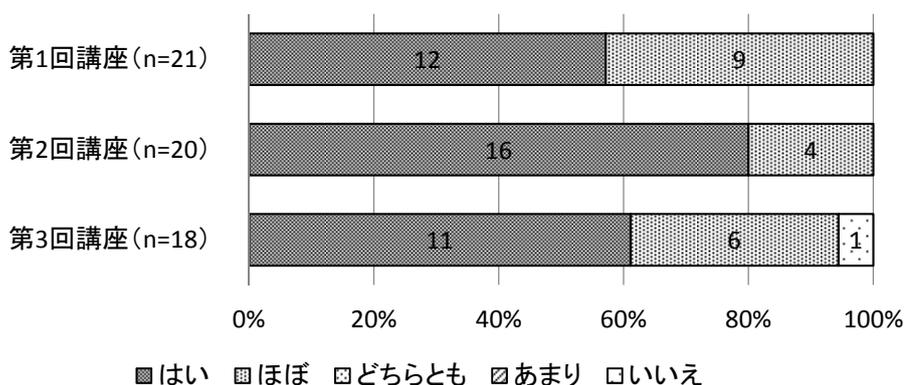


図 15 本講座は学びたいと思っていた内容でしたか

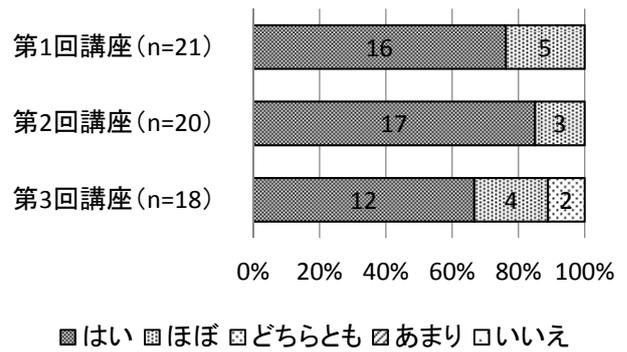
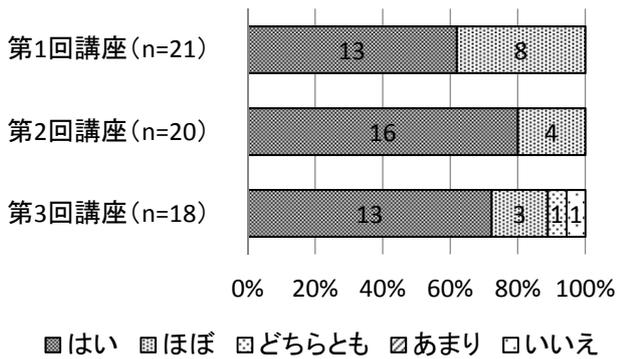


図 16 今回の研修から得られた内容は有用でしたか 図 17 今日の学習は今後の仕事や研究に役立ちますか

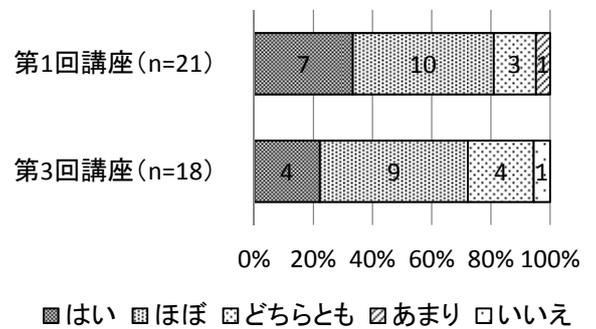
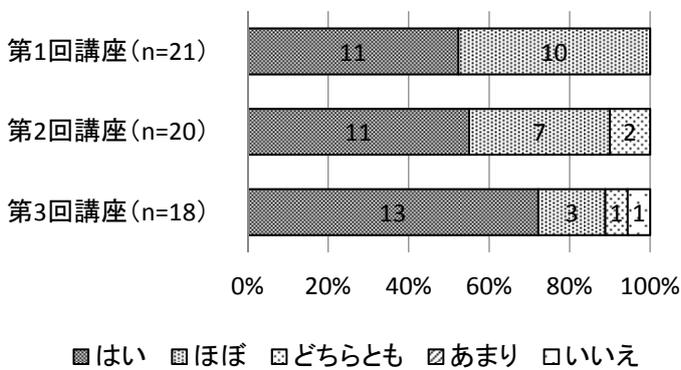


図 18 総合的に見て今日の研究に満足されましたか

図 19 研究に対する現在の意欲

## 6) 募集および開催期間

募集時期や開催時期については、いずれも適当であるとの回答があった（表 2）。

表 2 今回の募集時期、開催日の希望はありますか

(n=4/20)

- ・うちの施設は 2 月発表のため開催時期は丁度良かったです。
- ・もう少し早い時期が良いと思いました。
- ・5 月までに募集期間があったのはありがたかった。開催開始が 6 月末は、少し遅いように感じました。
- ・募集・開催期間は特に問題はなかったが、受講決定の連絡が遅く、年間スケジュールを組んだ後に届いたため全部受講することができなかった。

## 7) 受講の背景

今回の講座に自ら希望して受講したと回答した人は全体の約 4 割で、師長や部長、職場の上司など誰かに勧められて受講人が過半数を超えていた。

## 自由記載

今回の受講動機について尋ねたところ、受講者自身が職場の研究担当になったことや、研究方法の基礎を学びたいなどの動機があった。

以下、具体的な動機について記載した（表3）。

**表3 今回受講した理由をお聞かせください**

記述回答(n=7/20)

- ・研究発表をする予定であり基礎を知りたいことが理由です。
- ・研究の手法など学びたかったので
- ・院内で研究発表をするにあたり、リアルタイムで勉強するため
- ・院内で募集があり看護研究をすることになっていたため、是非受けたく、名乗りを上げて受講させてもらいました。
- ・今年度看護研究に当たっているため
- ・クリティークを学びたかったため
- ・研究してみたいと思ったので
- ・今年の研究事例の担当となった。
- ・今年研究を行うので活用できると思ったため
- ・統計、研究成果のまとめ方、発表の具体的な方法を学びたかったから

## 8) 今後の研修テーマ

本学キャリアアップセンターにおいて、今後学んでみたいテーマの希望があった。研究に関するテーマは、研究方法に関すること、成果報告の書き方、統計処理についてであった（表4）。また、研究以外のテーマでは、臨床における倫理的配慮について、看護理論について、地域連携について、エンドオブライフケアについてであった（表5）。本学キャリアアップセンターでは、研究相談活動を常に行っているため、随時連絡できることを受講生へ伝えつつ、本学看護学研究科（修士課程）への進学により学びを深める機会があることをアピールしていく。

**表4 研究に関するテーマ**

記述回答(n=6/20)

- ・統計について
- ・外来ケモ質的研究”思い”
- ・看護学生さんが施設に来られて、何かやりたいと思う研究テーマや連携してできる内容があれば良いなと思います。
- ・基礎
- ・書き方（はじめに、考察、結論）
- ・介護施設における緩和ケア

**表5 研究以外のテーマ**

記述回答(n=4/20)

- ・現場での倫理
- ・ナイチンゲールについて
- ・地域連携に関すること
- ・エンドオブライフケアについて

## 9) 研究活動

研究について感じていることについては、研究への苦手意識や時間的な負担感が聞かれた（表 6）。その背景には、看護職の不定期な勤務状況や仕事をこなしながら研究のための時間を作る困難さが考えられる。また、看護の質の向上のために看護研究に取り組んでいる施設も多く、研究方法の知識が未熟でも必然的に取り組まなければならない実態を抱えていることも明らかになった。一方で、受講生の施設の多くは、本講座の受講を上司がすすめており、所属部署や管理部門のバックアップを得ている。臨床の場において、研究に取り組みやすいサポート体制を看護管理者等と検討し、本講座の活用ができればよいと考える。

表 6 研究に取り組むことについて感じていること

記述回答(n=15/20)

- ・現在行っている看護が患者様にとってもっと用意ものになるよう研究することは大切なことだと思う。
- ・研究をするときに相談できる場所があれば
- ・負担です。
- ・総合科のため対象患者にまとまりがなく、テーマ設定・結果を出すことが難しいと感じている。
- ・モチベーションアップ
- ・やりたくない、仕方がない。
- ・指導してくれる人が近くにいないのが大きな問題
- ・まだまだケアマネジャーは専門職として初心者なので、少しずつでもやれることをしていきたいと思えます（負担ですが）。
- ・頑張ります、サポートしてくださる方がいる限り
- ・仕事と家庭を持ちながらで研究に十分できないが、どうせするなら楽しくできたらと考えている。
- ・日々の看護実践で感じる困難さを解決できる。
- ・勤務以外にやることが多いので負担になることも多いように思う。実際やり遂げれば達成感もあると思うのですが
- ・今回の研修で講師の方々にご指導いただけるので心強い。
- ・業務が多すぎて取り組む余裕がなく負担
- ・勤務がハードなので（12～14回/月）、正直協力しあえる仲間と一緒に取り組めるなら、頑張らなきゃ！と思えるのですが…。今は前向きに取り組めていないので申し訳なく思っています。

## 10) その他

受講生に本講座を受講した感想・意見については、以下の回答を得た（表 7）。

表 7 本講座を受講した感想・意見など

記述回答(n=8/20)

- ・いろいろアドバイスをさせていただいてありがとうございます。
- ・とても勉強になります。
- ・顔見知りの先生がいらっしゃり、質問もしやすいので良かったです。
- ・ありがとうございました。
- ・とても良かった学生でなくても外部受講で授業が受けられるのであれば、受けた内容があれば今後受けれたら受けたいと思うようになりました。聖泉大学を知れる機会にもなって良かったです。

- ・パソコンが苦手でしたが，講師の先生や他の先生が分かりやすく教えてくださって，楽しく受講ができました．ありがとうございました．
- ・研究をはじめするには教育・学び・意識（気づき）が必要と思いました．
- ・講義予定表のタイトルと内容がずれているので，期待した内容と違っていた．

各講座内の講義開始・終了時間，受講料，講座のタイムスケジュールについて，ほぼ全員が適切と回答しており，現在の内容や進行等に関しては問題ないとする。

以上の調査結果および考察を踏まえ本講座を振り返ると，全体として受講生にとって意義深い講座であったと考えられる。また，今後のキャリアアップ講座のプログラムに関する受講者の希望は，臨床現場における倫理的配慮や看護理論など，施設において指導的立場にある受講生がさらに学びを深めたいと感じていることが明らかとなった。本講座は，地域の保健・医療・福祉の場において看護の質の向上を目指した目的を含めている。受講者のニーズや学習意欲を把握しながら今後の講座を運営し，聖泉大学看護学部附属看護キャリアアップセンターとして発展していきたいとする。

## 2. キャリアジャンプ講座

### 2-1 キャリアジャンプ講義内容（シラバス・講義資料）及び 担当講師紹介

講義テーマ	統計解析の基礎・演習	担当	原田 小夜・種本 香
日時	平成 27 年 9 月 25 日（金） 10：00～11：30（統計解析の基礎） 12：30～14：00（統計解析の演習） 14：10～15：40（SPSS）	場所	第 3 コンピュータ室

#### 1) 講義の概要

看護研究に取り組む中で、Excel によるデータ処理・基礎統計に加え、さらに本格的に分析方法について学ぶことを目的とした講義である。

#### 2) 講義の到達目標

- ①統計解析の基礎を理解する
- ②SPSS の操作が理解し、操作できる

#### 3) 講義内容

##### 1. 統計解析の基礎

- 1) 統計的方法
- 2) データの種類と尺度
- 3) 変数，入力方式（従属変数と独立変数），記述統計量
- 4) 検定とは
- 5) 仮説を立てる（統計学的仮説検定，帰無仮説，対立仮説）
- 6) 有意確立，P 値，有意水準，t 検定， $\chi^2$  検定

##### 2. 統計解析の演習

##### 3. SPSS を学ぼう

- 1) SPSS の基本操作
- 2) 変数ビュー，新しい変数を作る
- 3) 記述統計量， $\chi^2$  検定，t 検定

#### 引用文献

- 牧本清子他：疫学・保健統計学，標準保健師講座別巻 2，医学書院，2009.
- 福富和夫，橋本修二：保健統計・疫学，南山堂，2011.
- 小田利勝：ウルトラビギナーのための SPSS による統計解析入門，プレアデス出版，2011.
- 村瀬洋一他：SPSS による多変量解析，オーム社，2008.

#### 【講師】原田 小夜（地域看護学）

専門は地域看護学で『高齢精神障害者ケアにおける介護職の困難感の実態と対策』や『自殺予防，うつ予防に関する研究』に取り組んでいる。

#### 【講師】種本 香（地域看護学）

専門は地域看護学で『保健師のキャリア形成』や『地域看護学演習・実習の教授方法』に関する研究に取り組んでいる。



## 2-2 キャリアジャンプ講座アンケート結果

キャリアジャンプ講座は、今年度で2回目となる。受講者の受講動機や受講後の自己評価を振り返り、講座の有用性と今後の講座内容等を検討することを目的にアンケート調査を実施した。アンケートは任意回答とした。

キャリアジャンプの受講者は12人で、アンケート回収数は12人(回収率100%、有効回答率83.3%)であった。

### 1) 基本属性 (表1)

年齢層は、40歳台が最も多く、所属部署において研究のリーダー的役割や指導する者、今後の研究の参考にする者が受講していた。

表1 キャリアジャンプ受講者の属性

個人の属性	n=10	
	人数	割合(%)
性別		
男性	0	0
女性	10	100
年齢		
20歳台	1	10
30歳台	2	20
40歳台	5	50
50歳台以上	2	20
職種		
看護師	5	79.1
保健師	3	4.2
その他	3	12.5
所属施設	人数	割合(%)
病院	5	50
介護老人保健施設	2	20
保健所、地域包括センター	2	20
その他	1	10

### 2) 受講時の統計ソフト習熟状況について

Excelの基本操作やSPSSの基本操作については、約7~8割があまりできないと回答していた(図1)。キャリアジャンプ講座は、キャリアアップ講座を修了した受講者であるためExcel統計を習得しているが、その後活用されていない背景が伺えた。キャリアジャンプ講座では、本格的に分析方法を学ぶ内容であり、受講生の習熟に応じたサポートが必要である。

n=10

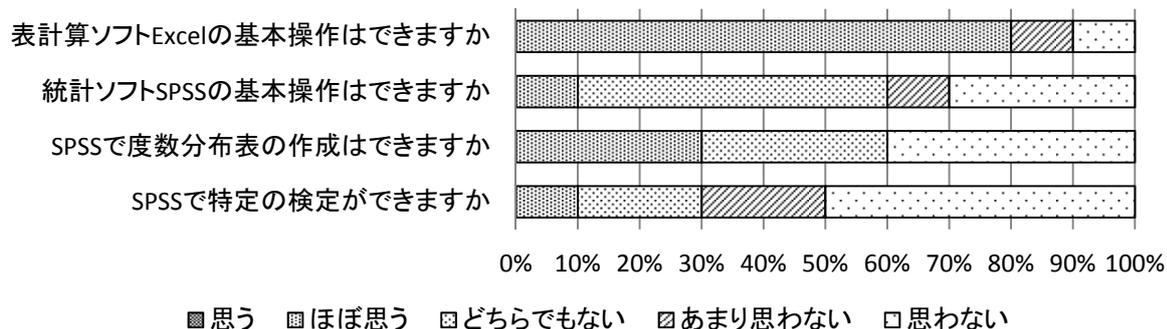


図1 受講時の統計ソフト習熟状況

### 3) 講義内容・環境・設備について (図2, 3, 4)

講義内容の理解に関しては、約6~8割が理解したと回答した。講義資料に関しては、ほぼ全員が理解しやすかったと回答した。教室は、パソコンを使用するため本学の情報センターが会場であったが、キャリアアップ講座の受講後のアンケートを参考に空調等の対応に気を付けることができたと考える。

キャリアジャンプ講座においても、学部教員がサポートを行い、また担当講師のExcelやSPSSの習熟度に応じた資料準備によって、内容は理解しやすいものになったと考える。

n=10

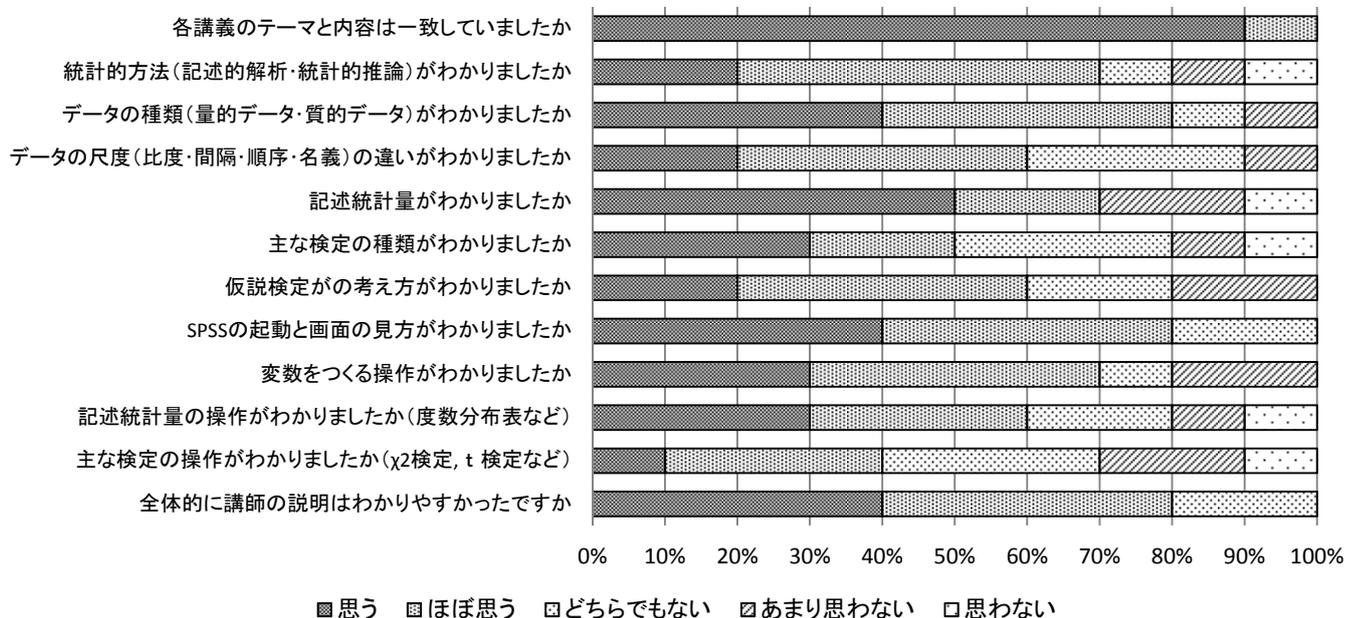


図2 講義内容

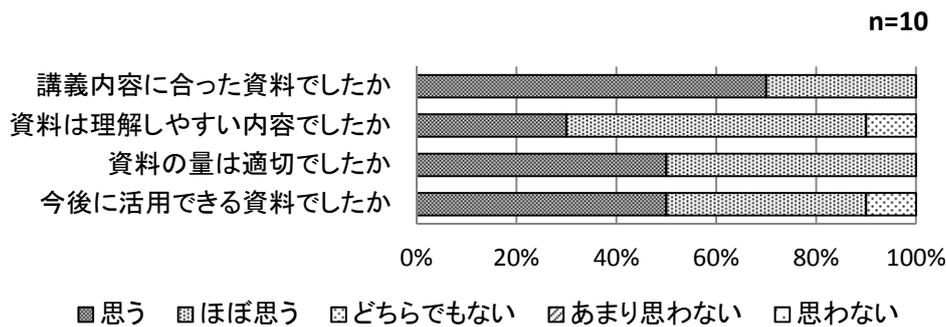


図3 講義資料

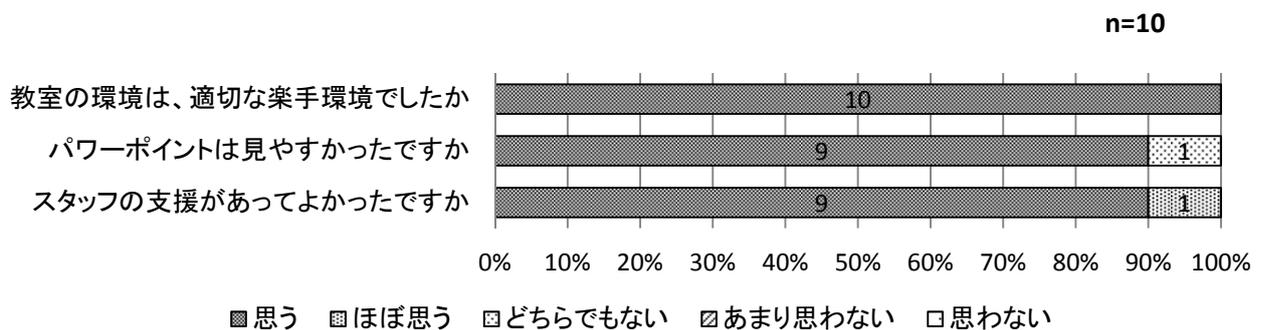


図4 環境・設備

#### 4) 総合

現在、調査・研究活動を行っている受講生は約4割で、指導的立場で調査・研究に関わっている受講生は約6割であった（図5）。また、学びたい内容であったと回答したのは約6割で、今後役に立つと回答したのは約5割であった。しかし、約7割の受講生が本講座を満足したと回答していた。今後も、臨床において量的研究に取り組むうえで統計分析は必要であり、受講希望者は多いことが予測されるため、講座を継続していく必要がある。

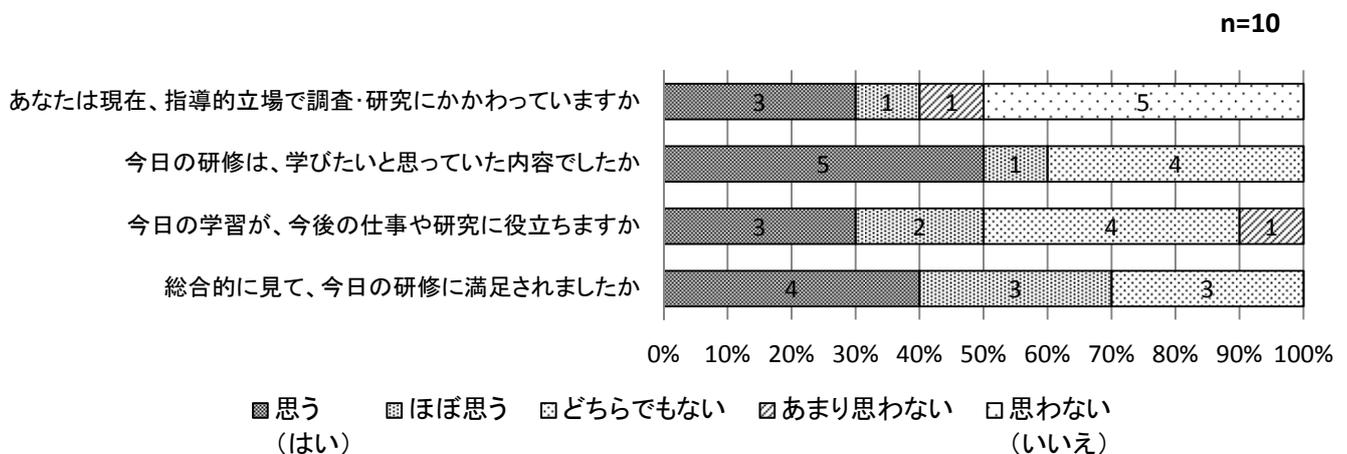


図5 総合

### 5) 募集期間・開催日について

今年度は第2回目の講座開催であり、募集期間・開催時期は適当であったと約8割が回答した（図6）。すでに研究に取り組んでいる受講生もあるが、概ね今年度と同様な時期の募集・開催でよいと考える。

n=10

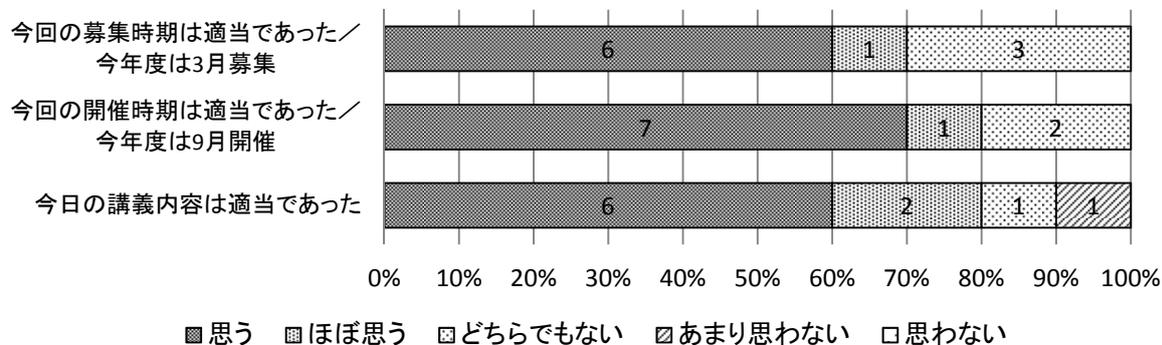


図6 募集時期・内容

### 6) 背景

受講動機については、5割が自らすすんで受講していた（表2）。また、5割が職場の上司に勧められて受講していた。今回の講座を、ほぼ全員が職場の同僚・友人などに勧めたいと回答していた（表3）。受講生は、自らが統計を学び、今後活かすことや職場での指導に役立てられるよう統計分析の習得に取り組んでいることが理解できた。

表2 受講理由

記述回答(n=8)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究担当（3）</li> <li>・検定方法、活用修得</li> <li>・今後の研究のため</li> <li>・SPSS と統計の技術向上のため（3）</li> </ul>
---

表3 本講座を受講してみて、気づいた点・意見・感想

記述回答(n=7)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・SPSS を使ってみていろいろできることがわかった。何を研究するのかデータから何をみたいのかを明らかにしないと使えないと感じた。</li> <li>・検定ソフトにかけた結果の分析をもう少しかみくだいてお聞きしたかった。結果を論文に表わしていくかも学びたかった。Excel の使い方を学ばないといけないと感じた。</li> <li>・資料はとても参考になります。SPSS の画面のハードコピーがあればさらにわかりやすかった。</li> <li>・レベルがちがいました。基本をもう一度学びたいです。</li> <li>・パソコン室の冷房が強かったため上着だけでなくひざかけなどの準備がいるなと思いました。検定ソフトの研修は初心者向けで SPSS がいやだというイメージがなくなりました。</li> <li>・SPSS の解析の前にデータの入力の仕方からわかるとよかった。</li> <li>・実践するときに相談窓口が気軽にできたらいいと思いました。</li> </ul>
---

### Ⅲ. 卒業生研修会

#### 1 卒業生研修講義内容（シラバス・講義資料）及び 担当講師紹介

講義テーマ	急変時の対応～こんなときどうする～	担当	藤川 真人・國松 秀美
日時	平成 28 年 3 月 25 日（木）13：30～15：00	場所	地域・在宅・精神看護学実習室

##### 1) 講義の概要

卒業生研修会が，看護実践力の育成に寄与し，卒業後の学習・相互交流の場となること．また，卒業研修会をきっかけに，学習意欲の向上につながり，卒業生自身が新たな行動指標を確立できるよう支援する．

##### 2) 講義の到達目標

- ①看護実践力を高めるための基礎的な知識や技術を身につけることができる
- ②臨床での疑問点を明確にし，それを解決するための方法がわかる
- ③学習意欲を向上することができる

##### 3) 講義内容

1. 急変に結びつく危険な徴候とは
2. アセスメントの方法
3. 意識障害，呼吸困難，胸痛急変のアセスメントと対応

##### 【講師】國松 秀美

専門は成人看護学で『救急看護・災害看護に関すること』に取り組んでいる。



##### 【講師】藤川 真人氏（彦根市立病院 救急看護認定看護師）

彦根市立病院の救急看護の認定看護師として，院内の救急対応システムの構築や呼吸ケアサポートチームとして人工呼吸器ケアにも携わっている。



## IV. 聖泉大学ホームページへの掲載

### 1 キャリアアップ講座の掲載記事

大学のホームページに、キャリアアップ講座の活動報告を掲載した。

写真掲載については受講生より承諾を得た。

聖泉大学ホームページ「News & Topics 2015／看護学部」掲載記事より抜粋

#### ○第1回目 掲載記事

「第5回キャリアアップ講座（全4回）が始まりました」2015年06月29日

看護キャリアアップセンターが主催する「キャリアアップ講座」が始まりました。本講座は、看護学研究の基礎的知識、データ処理方法、学会発表の方法などを身に付けるとともに、広く医療、福祉、教育の現場に携わる方の交流の場となることを目的としています。

第1回目は、「研究方法の進め方」「文献検索の方法」「クリティークの方法」についての講座が行われました。受講者からは、「病院内の仕事とは違い、講義を受けるのも刺激があって良いと思いました」などの声を聞かせていただきました。

5年目を迎えた本講座には、看護職以外の方にもご参加いただき、地域との交流が深まってきています。



キャリアアップ講座が始まりました



文献検索の方法を学びました

#### ○第2回目 掲載記事

「キャリアアップ講座／2回目の研修会を実施しました」2015年07月30日

看護キャリアアップセンター主催による第2回キャリアアップ講座を開催しました。

第2回目は、「Excelを活用したデータ処理を学ぼう」「アンケート調査の方法について学ぼう」「基礎統計を学ぼう」についての講座が行われました。日頃、Excel統計に触れる機会が少ないこともあり、基本的な内容から学ぶ機会となりました。受講者からは、「講師の熱意を感じ、丁寧に教えていただきわかりやすかった」「Excelは慣れていかないといけないため今後利用していきたい」などと前向きな声を聞かせていただきました。

キャリアアップ委員と受講者の方との距離も近くなり、日頃疑問に思われている事など相談される場面もありました。



キャリアアップ講座の様子



Excel の演習

### ○第3回目 掲載記事

「キャリアアップ講座／3回目の研修会を実施しました」2015年08月21日

看護キャリアアップセンター主催による第3回キャリアアップ講座を実施しました。

今回のテーマは、「研究成果のまとめ方と発表について学ぼう」「学会発表の方法について学ぼう」「口頭発表のスライドを作成してみよう」でした。

講師が実際に学会発表で使用したパワーポイントやポスターを紹介され、具体的に発表方法について学ぶことができました。パワーポイントを作成した受講者からは、「パソコンが苦手でしたが、わかりやすく教えてください、楽しく受講ができました」などの声を聞かせていただきました。

講座の最後には、小グループに分かれ、「施設内での看護研究の取り組みについて」意見交換を行い、他機関の研究の取り組みについても知る機会を持つことができました。



パワーポイントの操作を学びました



意見交換の様子

## ○第4回目 掲載記事

「キャリアアップ講座が最終回を迎えました」2015年09月11日

9月11日(金),平成27年度第4回キャリアアップ講座が開催されました.

6月からスタートした講座は,「ホップ」「ステップ」「アップ」と月1回のペースで開催していましたが,あっという間に最終回を迎えました.今回は「個別研究相談」と称して,受講生の研究に関する様々な疑問や悩みを解決するために,看護学部の教員が支援しました.受講生の方からは,“個別での指導はよかった”“研修では疑問がすっきりする度に,「やろう!」という気になり,データの処理などしっかりまとめられるよう頑張ろうと思います”,という声を聴かせていただきました.

最後に4回全講座に参加された15名の受講生へキャリアアップセンター長より修了証書が授与され,今年の講座も盛会に終わることが出来ました.

なお,講座の詳細につきましては,『平成27年度看護キャリアアップセンター活動報告』に,講座の詳細掲載される予定です.



質問や悩みを教員に相談



受講生と委員との集合写真

## 2 キャリアジャンプ講座の掲載記事

大学のホームページに、キャリアジャンプ講座の活動報告を掲載した。

写真掲載については受講生より承諾を得た。

聖泉大学ホームページ「News & Topics 2015／看護学部」掲載記事より抜粋

### ○キャリアジャンプ講座 掲載記事

「第2回 キャリアジャンプ講座を行いました」2015年9月25日

看護研究の基礎をテーマとして第5回キャリアアップ講座の企画に加え、さらに本格的に分析方法について学べるよう、キャリアジャンプ（特別講座）を開催しました。

今回は、本学ですで行われたキャリアアップ講座「Excelによるデータ処理・基礎統計」を修了された方や、その内容を習得できている方を対象に実施しました。

講座は、看護研究に取り組む中で「検定って何？」「どのような分析方法があるの？」「集めたデータをどのように分析したらいいの？」といった疑問にお答えする内容で、①統計解析の基礎、②統計解析の演習、③SPSSを学ぼうの3部構成で行われました。

受講生の方からは、「SPSSが嫌だというイメージがなくなった」「SPSSを使ってみていろいろなことができるようになった。今後研究の中で使っていけたらと思う」という声を聴かせていただきました。



統計解析の基礎を学びました



受講生の皆さんで意見交換をしました



# 資料

- ◆ 聖泉大学看護学部附属看護キャリアアップセンター規程
- ◆ キャリアアップ講座受講者の情報システム利用について
- ◆ 共同研究のお誘い

## 資料

### 聖泉大学看護学部附属看護キャリアアップセンター規程

(趣旨)

第1条 この規程は、聖泉大学学則第3条の3に基づき、看護学部附属看護キャリアアップセンター（以下「センター」という。）の構成及び運営、その他必要な事項について定める。

(目的)

第2条 センターは、地域の医療、教育の発展と向上のための看護研究や講座の場として、また医療・福祉・教育現場の相互交流の場としての役割を担うことを目的とする。

(事業)

第3条 センターは、その目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 看護の質の向上を目指し、看護研究をテーマとした講座の開設
- (2) 地域の医療関係者、看護教育関係者の研究のサポート
- (3) 地域の医療関係者、看護教育関係者との共同研究
- (4) 地域医療の向上のための研究・調査に関する事業
- (5) 当大学卒業生の研究、講座のサポート
- (6) その他、センターの目的達成のために必要な事業

(管理)

第4条 センターにセンター長を置く。

- 2 センター長は、センターを代表し、その事業及び管理運営の全般を統括する。
- 3 センター長は、学部長の推薦により学長が任命する。
- 4 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、前任者の任期途中で就任した場合は、その残任期間とする。
- 5 センターには、必要に応じて客員研究員を置くことができる。

(委員会)

第5条 センターに、委員会を置く。

- 2 センターは、次に掲げる者をもって組織する。
  - (1) センター長（委員長）1名
  - (2) 学部教員 若干名
  - (3) その他、学部長が必要と認めた者
- 3 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、その残任期間とする。
- 4 委員会は、次の事項について審議する。
  - (1) センターの運営に関する事項
  - (2) センターの事業に関する事項
  - (3) センターの予算に関する事項
  - (4) センターの研究活動に関する事項
  - (5) その他、センターの目的を達成するために必要な事項

5 委員長は、必要に応じ、委員以外の者の会議への出席を求め、意見を聴くことができる。

(センターの会計)

第6条 センターの会計は、本大学からの支出金および学外からの会費収入、援助金等により賄う。

(起案手続)

第7条 センターの行う事業その他重要な事項は、教授会に提案し、報告しなければならない。

(事務)

第8条 センターの事務は、事務部長が指名する所轄部署において行う。

(規程の改廃等)

第9条 この規程の改廃は、教授会の議を経て学長が行う。

付則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

## 資料

# キャリアアップ講座受講者 情報システム利用について

1. 利用資格：キャリアアップ講座受講生（聖泉大学情報センター規程第4・5条）
2. 利用期間：講座申込年度開講初日～当該年度末
3. ユーザー登録とID・パスワードの提供
  - 1) ユーザー登録は、本人が所定の用紙に必要事項を記入し申請する。
  - 2) 情報センターから申請者に対しID・パスワードを発行する。
  - 3) 個人のID・パスワードは、第2回講座からパソコンのログインに使用する。
4. 情報センター利用手続き
  - 1) 情報センター事務室にある「コンピュータ室利用申込」用紙に必要事項を記入する。
  - 2) 受講証明書を情報センターに預ける。それと引き換えに、許可証を受け取る。  
(受講証明書を所持しない場合は、原則利用は認められない。)
  - 3) 許可証に記載された番号のコンピュータを使用する。
  - 4) 利用終了後、情報センター事務室において1)で記入した用紙に終了時刻を記入する。
  - 5) 許可証と引き換えに受講証明書を返却してもらう。
5. 情報センターコンピューター室の利用
  - 1) 第1コンピュータ室のみ利用を許可する。
  - 2) 開館日程は提示される。
  - 3) 利用できない日
    - a) 土日祝日
    - b) 学部定期試験前1週間前から学部定期試験期間中
    - c) 水曜日 12:00-14:30（利用状況によって、変更される可能性あり）
    - d) システムメンテナンス実施期間中（夏期休暇期間中を予定）

\*なお情報センターの開館日程については、キャリアアップ講座開講時および看護キャリアアップセンターホームページに情報提供する。
  - 4) 利用目的は、文献検索ならびに関連作業のみとする。
  - 5) Webは閲覧可能であるが、一部のページ、動画サイトは、コンテンツフィルターによる制限がかかるため閲覧ができない。
  - 6) メール利用はできない。
  - 7) 取得情報の保存に当たっては、個人で保存すること。
6. 使用検索システム  
医学中央雑誌、シナールについて利用可能であるが、利用数に制限がある。
7. プリンター利用について
  - 1) ポイント購入制   20ポイント：A4白黒印刷20枚＝100円  
                          100ポイント：A4白黒印刷100枚＝400円

以上



## 共同研究のお誘い

### ■共同研究をしませんか

看護キャリアアップセンターでは、地域の医療、教育の発展と向上のための看護研究や講座の場として、また医療・福祉・教育現場の相互交流の場としての役割を担うことを目的として、地域の医療関係者、看護教育関係者との共同研究を積極的に行っております。

共同研究の実施形態として、本学教員と共同または分担して研究するほか、医療施設での研究の指導・サポートも可能です。

### ■共同研究のすすめかた

- ・研究テーマは決まっているが、適当な教員がわからない場合

お問い合わせください。担当者がサポートいたします。

- ・共同研究をしたい教員が決まっている場合

当該教員におつなぎいたします。研究内容・期間・研究計画等をお知らせください。

### ■本学教員研究内容紹介

自分のしたい研究テーマを推進する教員が不在の場合でも一度ご相談ください。可能な限り対応させていただきます。

### ■お申込み

所定の申込用紙にご記入いただき、下記アドレスまで添付ファイルで送信下さい。

### ■受け入れについて

申込みいただいた内容を確認しまして、共同研究の受け入れを決定いたします。

### ■その他

共同研究を行う拠点として本学併設の研究施設（図書館・情報センターほか）などがご利用いただけます（研究推進目的に限る）。

### ■申込み及び問い合わせ先

〒521-1123 滋賀県彦根市肥田町 720 番地

聖泉大学 看護学部附属 看護キャリアアップセンター

Tel : 0749-47-8400 (代表)

Fax : 0749-43-2411

E-mail : kango-career@seisen.ac.jp



## 聖泉大学看護学部附属看護キャリアアップセンター活動報告

---

発行日

2016年3月31日

発行者

聖泉大学看護学部附属看護キャリアアップセンター委員会

委員長 小山 敦代  
委員 田中 祐子  
平田 美紀  
川嶋 元子  
國松 秀美  
千田 美紀子  
山口 由美子

発行所

聖泉大学看護学部附属看護キャリアアップセンター

TEL. 0749-47-8400

印刷所

東オフィス

\* 今年度より、表紙の色を赤から黄に変更しています。